

第 42 年度（2026 年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「演習で学ぶことの大切さ」

技術を学ぶとき、皆さんどうされていますか？

本、インターネット、セミナーなど、今は色々な方法がありますね。

「演習コース I ソフトウェア工学の基礎」はその名の通り、演習を通じて、ソフトウェア工学の幅広い内容を学んでいきます。

ここで、なぜ演習なのか、その理由をご紹介します。

理由 1：「体得する」

やってみないと、理解したかがわからない。頭でわかったつもりでも、いざ、やってみると、「あれ、どうしよう」となることは多々あります。教わったことを試してみても、体得できません。また、やってみながら、この場合どうしたらいいのかなど、疑問がわいた時も講師の方にその場で確認できます。

理由 2：「定着する」

読んだり、聞いたりするより、やってみたことの方が、定着する割合が高いことが多いです。広い分野の学びには、すぐ実践に結びつかない話題もあります。でも、頭の中の棚に定着していれば、必要な時に引き出せます。

理由 3：「視野が広がる」

演習とディスカッションを通して、各自のバックボーンの違いにより、習慣、考え方が異なることを体感できます。異なることに驚きを得て、視野を広げることができます。

・2024 年度の演習実績は以下（2025 年度は一部変更の可能性あります）：

レビュー、オブジェクト指向分析設計、アーキテクチャ設計評価、要求工学、UX デザイン手法、アジャイル、見積、テスト、メトリクスと GQM

演習コース I ソフトウェア工学の基礎

主 査：猪塚 修（横河ソリューションサービス株式会社）

副主査：長谷川 裕一（合同会社 Starlight & Storm）

アドバイザー：鷺崎 弘宜（早稲田大学）

▼演習コース I 活動内容・詳細はこちら

<https://www.juse.or.jp/sqip/workshop/outline/index.html#enshu1>

■主 査：猪塚 修

本演習コースの1期生であり、演習内容を実務に活かされ、さらには演習コースのとりまとめと講師（それも複数の様々な演習の！）をずっと務められるという「ミスター・演習コースI」です。開発、運用、品質管理、プロジェクトマネジメント等幅広く実践されており、どのような話題であっても的確に、ニコニコと穏やかにご助言されます。コーチングの理論や実践もリードされており、研究員のやる気や学びがグイグイ引き出されます。

略歴

横河ソリューションズ(株)

日本品質管理学会 第48年度代議員、高品質ソフトウェア技術交流会（元会長）

ON+OFF メンタルトレーニング協会、ヘルスコーチ・ジャパン、国際コーチ連盟など。

■副主査：長谷川 裕一

合同会社 Starlight&Storm の長谷川さんとはとにかく話題の多い人、毎年行っていただく演習中も脱線しかかる（でもとても有意義な）話題を付け加えながら、楽しく演習を行います。今年度からは各演習のサポートでも、その膨大な知識と話題を提供していただけます。

略歴

合同会社 Starlight&Storm 代表社員、(株)フルネス 社外取締役、日本 Spring ユーザ会会長

■アドバイザー：鷺崎 弘宜

早稲田大学理工学部教授の鷺崎さんはソフトウェア工学全般、ソフトウェア品質（ISO25000）を広く深くカバーして活躍されています。その幅広い知見からワークの時の鋭い突っ込みがあります。学生さんの話では厳しい先生とのことで評判ですが、優しく物静かな紳士です。

略歴

早稲田大学教授、国立情報学研究所客員教授、(株)エクスマーシオン 社外取締役、(株)システム情報 顧問、人間環境大学 顧問。日科技連 SQiP 研究会運営委員会委員長、IEEE CS 次期会長、ISO/IEC/JTC1 SC7/WG20 コンビナー、情報処理学会 SIGSE 主査ほか。